



(有)エコ・ライス新潟 (新潟県長岡市)
 代表取締役 豊永 有 (とよながゆう) 氏
<https://eco-rice.jp>

【会社及び輸出の概要】

- ・2002年、県内の循環型農業によるコメ生産者が集まって農業法人を設立（従業員：7名）。80団体(個人)が参加。
- ・無農薬、減農薬栽培によるコメ生産のほか、低グルテンのコメを生産し、輸出に取り組む。

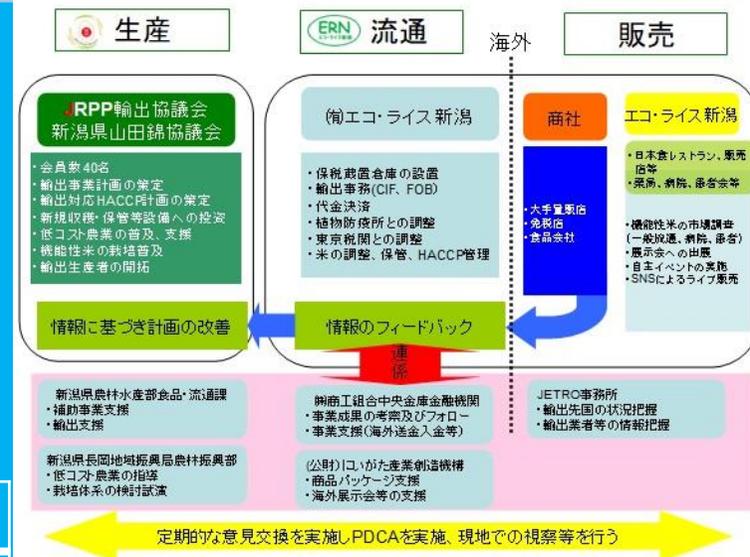
【輸出に取り組んだきっかけ】

- ・EPA締結でEUへの販路開拓の可能性が高まったこと。

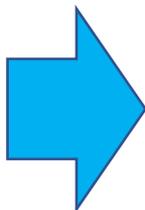
【輸出実績】

年度	輸出量 (t)	輸出先	主な品種
令和4年度	精米 60 玄米 120	アメリカ、UAE、 フランス、台湾	コシヒカリ、こしいぶき、白藤、ゆきの精、春陽
令和3年度	精米 50 玄米 110	アメリカ、UAE、 フランス、台湾	コシヒカリ こしいぶき
令和2年度	精米 71 玄米 100	アメリカ、UAE、 フランス、台湾	コシヒカリ こしいぶき

【セールスポイント】フットワークが軽く、コロナ禍でも海外に出張し、調査・販売促進のための取組を行った。



輸出開始時の不安や疑問、苦労した点



- ・価格差でイタリア産米、アメリカ産米と競争ができるか。
- ・日本のご飯を欧米人が受け入れてもらえるか。
- ・輸出事務（各種書類作成）や植物防疫検査のやり方。
- ・コンテナ料金の高騰により、相手国での販売価格が上昇したこと。
- ・コンテナ不足によるコンテナ確保と国内物流の規制が強化されたこと。

輸出で大事な点、工夫した点



- ・米だけではなく、コンテナの空きスペースに様々な商品を混載した。（米粉、日本酒、のり、みそ、パックご飯etc）
- ・新潟東港を活用することで、国内物流費を圧縮した。
- ・独自のイベントを開催した。（ドバイ、パリ、NY）
- ・GFPに加入した。
- ・輸出計画を策定した。

今後の展望



- ・コロナで実施できなかった若手生産者を連れてのアメリカ、EUの市場調査、および、自主イベントを開催する。
- ・酒蔵と連携をして日本酒と共に米を輸出をする。

